

## 4. 国際交流の推進

### 1. 国際観光学科の開設を端緒とする取り組み

本学では、平成 9 年(1997 年)に商学部国際観光学科を設置した。当時定員 100 名に対して 30%、つまり 30 名の留学生を受け入れることを要件として設置認可を受けた。これは、当時の文部省のアジア諸国からの 10 万人の留学生受入れ施策に則ったものであった。

岡山県、岡山市などの行政や民間国際交流団体などが、アメリカ合衆国内の諸都市などと並んで、かねてから中国政府及び各地域などと密接な連携・友好関係にあることに鑑み、さらに、本学にゆかりのある経済人の仲立ちなどを経て、本学では、まず、「国際観光学科」設立に向けて、平成 8(1996)年 11 月に中華人民共和国遼寧省の「大連外国語学院大学」と「友好交流協定」を締結した。

これは、在学生の相互派遣、教員の相互派遣、図書の交換、「大連外国語学院大学」の日本国内での広報、本学「国際観光学科」への中国人留学生学生募集への協力など、相互の平等互惠の原則のもとに締結したものである。

その後、留学生の相互受入れ、教員の派遣など「国際観光学科」を中心に、10 年を超える実績を積み重ねてきたところである。また、「大連外国語学院大学」との交流成果等を踏まえ、同じく中国の「江西師範大学」や「洛陽大学」とも提携を結び、それぞれの大学から交換留学生、正規編入学生を受け入れているところである。このようにして、アジア諸国からの留学生の 10 万人受入れのほんの一助としての本学の役割を果たしてきた。

しかしながら、国際観光学科については、当初の開設目的とカリキュラムとの間の齟齬、資格取得実績の低迷など、さまざまな隘路が生じ、結果として、残念ながら志願者数等も停滞し、平成 16(2004)年度をもって募集を停止した。小規模大学の最大の利点・長所であるところの全学あげての新設学科のサポート体制が万全でなかった点なども反省材料であろう。本学は、この国際観光学科の募集停止に至る経緯を反省点として、厳粛に受け止めるなければならない。

今一度、原点に立ち返り、新たな大学の国際化への真摯な取り組みが求められているところである。

いみじくも、内閣総理大臣を議長とし、伊藤元重東京大学大学院教授を座長とする「アジア・ゲートウェイ戦略会議」では、平成 19(2007)年 5 月 16 日に最重要項目 10 を提示した。

その 3 には「アジア高度人材ネットワークのハブを目指した留学生政策の再構築」があげられ、その中で「～(中略)～ こうした観点から「10 万人受入れ計画」策定から 4 半世紀が経過し、国内外の状況も大きく変化したことも踏まえ、産官学の力を結集して、下記の「新たな留学生戦略策定に向けた基本方針」を踏まえ、今後の取り組みを早急に具体化し、新たな留学生戦略を策定する。～」としている。

この中で言及されている「下記の～基本方針」の中には

(1)留学生受入れシェアの確保:世界の留学生市場の急拡大(2015 年には 500 万人、2025 年には 700 万人規模との試算もあり)を踏まえ、世界への知的貢献・影響力を維持するため、質の確保との両立を前提に、今後とも、少なくとも現行の受入れシェア(5%程度)の確保を目指す。

(2)日本人の海外学習機会の拡大:世界で活躍できる日本人を育てる観点から、大学のオフショア・プログラムや短期留学プログラムの開発、若手研究者の派遣制度の充実、青少年交流の拡大、戦略的に重要な国への派遣等を推進する。(以下略)

などが唱えられている。

大学の淘汰がなされていくであろうこれからの時代、本学では既述のごとく、ここ 10 年来、大連外国語学院大学をはじめとする中国、韓国の著名大学と友好交流協定を締結し、教員の招聘や学生の交換留学など様々な交流事業を展開している。今後はこれらの素地の基に、さらに提携関係を深め、国家戦略である「アジア高度人材ネットワークのハブ」を目指した取組みに沿って、本学なりの交流施策・事業を展開してまいりたい。

## 2. アジアビジネス専攻の開設

21 世紀はアジアの時代と言われている。通貨危機後のアセアン諸国の経済復興や、中国の経済大国としての台頭は、アジアの潜在成長力の高さを改めて実証した。日本の社会もこのアジアの激変に巻き込まれつつある。かつての「アジアと日本」は今や「アジアの中の日本」と言う水平的立場へと変化している。

少子高齢化の中で人口減少の事態の日本でも、すべての社会局面をオープンにしていけば、アジアや世界の活力を取り込むことができる。アジアの国々と協力して有能な人材の育成を強化し、日本の中に彼らの活躍の場を提供すること、また、大学教育をはじめとして国内教育のこれまでの「欧米一辺倒」の姿勢から「アジア重視」への戦略的転換を図ることも重要な課題となっている。

こうした背景や、これまでの取り組みへの反省も踏まえ、本学においては、まず新たな第一歩として、本年度から商学部商学科に「アジアビジネス専攻」を開設するべく、昨年来、諸準備を進めてきた。

本学は「地学地就」を標榜し、どちらかと言えば、中央へ遍く人材を輩出というよりは、地元の中堅・優良企業への安定的な人材の供給という役割を担ってきた。そうした観点から見ても、地場の企業のアジア、とりわけ中国との取引の拡大、現地への進出という動向を座視しているわけにはいかない。地元産業界から地元大学に求められているのは「アジアを中心とした国際ビジネスの場で活躍できる人材」である。

「アジアビジネス専攻」は、こうした要請に応えるべく、「実学」の視点から、中国語の語学力と貿易・金融・証券などの国際ビジネス知識を組み合わせたカリキュラムを導入している。入学初年度に、このプログラムの協力校である大連外国語大学に 1 年間留学し、ビジネスツールとなる中国語を完全習得することになっている。また、2 年次からは中国語と英語による商学分野の専門領域の学習を進める。

このようにして、中国語に堪能なだけではなく、中国の生活文化や中国の人々の思考回路まである程度理解できるようなビジネスパーソンを、地元企業に送り出したいと考えているところである。幸いにして、本専攻の第 1 期生 9 名は、現在大連外国語大学において、ハードなカリキュラムを元気にこなしており、1 年後、さらには彼らが社会人となる 4 年後が大いに期待できる。

## 3. 孔子学院の開設

孔子学院は、中国語と中国文化を普及するために、中国政府が行っている国家プロジェクトで、全世界に設置がすすめられており、先ごろ、中四国地方ではじめて、本学が孔子学院を開設する事の認可を得た。

孔子学院制度は平成 16(2004)年に始まり、現在、54 の国・地域にある 150 の教育機関が、中国政府の認可を受け設置している。国内では平成 17(2005)年以降、立命館大学や桜美林大学などに続き、この 4 月に早稲田大学、そして今回、国内 8 番目として本学に設置認可がおりた。

吉備真備から岡崎嘉平太氏に到るまで、郷土の先覚たちは、隣国中国の文化・学術を重んじ、人々と敬愛の念をもって友好関係を結んできた。また、現在は、岡山県、岡山市なども中国江西省、洛陽市などと友好提携を結び、行政サイドの交流事業はもとより、日中懇話会など民間交流団体が主導する、様々な市民交流も活発に行われている。さらに、本学においては、既述の如く、大連外国語学院大学、江西師範大学、洛陽大学などと学生・教員の相互派遣、留学など様々な提携実績を挙げており、これらの地域社会の背景と本学の取り組みとが相俟って評価されて、今回の設置認可となった。

中四国では初の認可であり、地理的に有利な条件などを活かしながら、中四国を包括的なエリアとする中国語・中国文化のセンターとしての役割と機能を担っていきたい。

また、躍進めざましい中国国家並びにその経済の隆盛は、わが国経済にも多大な影響を及ぼしている。岡山はもとより、中四国においても、中国への進出企業、合弁会社の設立なども進んでおり、貿易、通商の面でもその交流・連携の度合い深まっている。

本学が法・経・商のビジネス系学部からなる大学であること、これまでの中国各地との連携による人的ネットワーク、こうしたポテンシャルを最大限に活用して、従来型の孔子学院に加えて、中四国と遼寧省を結ぶ、日中経済情報センター的機能も付加していきたいと考えている。なお、これらの機能の付与にあたっては、県内及び近隣の経済団体との連携・協力、機能分担が不可欠となる。

当面、提携大学である大連外国語学院大学との協議を進め、理事会、学院役職者等の選定を行う。また、中国政府への申請書に記載の如く、下記の業務に逐次取り組んでいくこととしている。すなわち

- ①マルチメディア及びインターネットを含む多様な方法を使用し、中国語教育を行う。
- ②大学のために中国語教師を育成訓練するとともに、小・中学校、高等学校のための中国語教師を育成訓練する。
- ③中国へ留学する意向のある人にコンサルティングサービスを提供する。
- ④中国語能力検定試験及び中国語教育能力検定試験を実施する。
- ⑤社会各界の人々のために、多類型、多領域にわたる中国語コースを開設する。
- ⑥学術活動並びに他の中国語及び中国文化と関連のあるコンクールを開催する。
- ⑦中国映画とテレビ番組を上映する。
- ⑧中国進出企業或いは中国進出予定企業に対するコンサルティングサービス及びそれらの企業間の交流促進を行う。
- ⑨教育界及び他の職業の人々に参考資源を提供する。

なお、今後、これらの内容の具体化を詰め、遅くとも秋には、正式開設としたい。